



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2020

7月31日号

177
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8157 福島市蓬萊町七丁目13番5号 TEL/FAX 024(529)7238

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

新型コロナウイルスの 終息を願う



副会長 阿部 郁 明

第9回公益社団法人福島県診療放射線技師会定時総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、書面により令和2年5月30日に開催され、すべての議案について承認を頂くことが出来ました。このような状況の中での開催でしたので理事が集まる事も出来ない中、総会役員の皆様方のご尽力により無事、総会が終了出来ました事、心より御礼を申し上げます。

そして令和2年6月6日(土)第81回公益社団法人日本診療放射線技師会定時総会についても新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として異例の『議決権行使書(書面評決)』にて開催されました。私も代議員の一人として、インターネットライブ配信にてその状況を確認させていただきました。今大会において役員改選が行われ、新役員が選出されました。会長が交代となり、新たな体制となりました。新会長は就任あいさつの中で、会員数を増やすと明言されておりました。私も会員の一人として、新体制には大いに期待するところがあります。会員のための技師会として運営して頂く事と、若い放射線技師の方々が入会したくなるような魅力のある技師会となるよう改革して頂けると良いですね。

さて、県技師会会員の皆さま方の医療機関におかれましても、2月以降新型コロナウイルス感染症関連の業務にて忙しく対応されて来た事と思います。現場では、感染するリスクに不安を感じながら献身的に業務を行っている事と思います。大変お疲れ様です。6月に入って福島県においては暫く新規感染者が発生すること無く少し落ち着いたようです。緊急事態宣言中の一人一人の行動自粛が反映しているのでしょう。福島県は5月15日に緊急事態宣言が解除され、少しずつ県における規制も緩和され、経済も少しずつ活性化し、それに伴い人々の行動範囲も広がって来ています。5月27日には5都道県でも緊急事態宣言が解除されました。これからは県をまたぐ往来も増えてくるでしょうし、そうなればまた、新規感染者が発生することも想定できます。最近では、東京そしてその近郊において新規陽性患者が増加傾向となっております。この先は第2波を想定し対応できるよう準備をして行かなければなりません。この新型コロナウイルスの完全な終息には最低でも1年にかかる、とも言われております。最近、大阪にて国内初、ワクチンの臨床試験が開始されたようです。「DNAワクチン」と呼ばれるタイプのワクチンだそうで、短時間で大量に培養する事が可能という特徴があるそうです。ぜひ成功して終息に向けて動き出してくれることを願います。それまでは、【withコロナ】暫くは共存していくしかありません。

今、私たちが感染しないために、感染させないために一人一人が出来ることは、手洗い、うがい、3密を防ぐ、そして行動自粛でしょうか、しかしながら行動自粛を長く続ける事は難しいです。この先は感染予防を考えた行動を一人一人が実行していく事が大切なのかもしれません。一日でも早いコロナ終息を願うばかりです。

福島県立医科大学 新医療系学部だより

福島県立医科大学新医療系学部設置準備室 久保 均

皆さま、こんにちは。本原稿を書いている時点でCOVID-19の感染拡大は制御できているようですが、東京などでは第二波や第三波の兆候が出つつある感じです。COVID-19対応で病院勤務されている先生方は大変だったかと思いますが、少しは通常へ戻りつつありますでしょうか？でも、ベッドを空けたり手術や外来を制限したりしましたので、これからは経営に影響が出て来ますよね…。この辺りは一般の方々にはなかなか理解が難しいところだと思いますが、丁寧な説明で理解して頂くと共に行政からの何らかの助成を期待するしかないでしょうか…。これを機会に、日本における医療の取り扱いがもう少し良くなることを願っています。

さて、今回は海外での活動などをご紹介することに戻りまして、加藤教授にそのご経験などを執筆して頂きます。加藤先生、どうぞよろしくお願いいたします。

PTCOG58参加記

福島県立医科大学新医療系学部設置準備室 加藤 貴弘

福島県診療放射線技師会会員の皆様、いつもお世話になっております。シリーズ(?)『教員が行っている様々な活動紹介』の原稿の順番がついに私にも回ってきました。これまでの先生方は海外留学記、国際学会参加記について詳細なレポートをされていましたが、残念ながら私は海外留学の経験はなく、国際学会については毎回弾丸トラベル的に数日参加する程度ですのであまりエピソードトク的なネタも少ないのですが、メ切も迫ってきておりますので昨年参加させていただいた国際学会についてお話させていただこうかと思えます。

今回お話をさせていただくのは昨年6月にマンチェスター(イギリス)で開催された国際粒子線治療会議(Particle Therapy Co-Operative Group)という、おそらく読者の皆様でご存知の方は限りなくゼロに近いと思われる、少々マニアックな学会についてです。略称はPTCOGと書いてピーティーコグと呼称されている、世界の粒子線治療関係者にとっては比較的馴染み深い学会になります。それぞれの分野に特化された、さまざまな学会が世の中には存在していますが、PTCOGもそのような学会の一つになります。粒子線治療に携わる関係者が年に一度、一堂に会する学会であり(写真1)、毎年持ち回りで世界各地で開催されています。今回で第58回ということですが、実際は58年前から存在するわけではなく、創立は1985年であり、年1回開催という現在の形に落ち着いたのが2007年からでそれ以前は年数回のペースで開催されていたようです。実のところPTCOG自体への参加は今回で3回目なのですが、これまでの2回は前橋、横浜といずれも“日帰り国際学会参加”でした。2回ともポスター発表でしたが、今回はせっかく海外に行くからと2題エントリーしてみたのですが、そのうち1題が幸か不幸か口述発表にセレクトされてしまい、少々大変な思いをしましたが、そのあたりはまた後述させていただきます。

国際学会へのエントリーの仕方については前回、高橋先生が詳述されていますが、おそらくどの学会もwebで簡単に実施できるようになっているものと思いますので、ご興味のある方はそれぞれの学会のHPをチェックしていただくのがよろしいかと思えます。演題をエントリーする場合は初めてですと少し手間取る恐れがありますのでメ切ギリギリではなく、少し余裕を持って登録されることをオススメ致します。おそらくですが、専門分野に特化された学会であるほど演題審査のハードルは低く、余程のことがない限りエントリーすれば採択されるように思いますので(たぶん)我こそはと思われる方は是非チャレンジしてみてくださいと思います。国際学会では参加費は国内学会に比べるとかなり高額になりますが、国内学会とはまた違った刺激を受けることができますので一度は参加してみる価値はあるように個人的には思っているところです。

一般的に発表形式には口述とポスターとあるわけですが、近年では後者は電子ポスター化が進んでいるようであらかじめ作成したポスターを持参してボードに貼り付ける、というスタイルはなくなりつつあります。米国医学物理学会（American Association of Physicist in Medicine; AAPM）でも昨年と同様な形式になっており、個人的にはポスター会場を見て回るのが好きでしたのでちょっと寂しい気もしていますが、それが世の中の流れのようです。PTCOGにおいてもそれは同様で今回からそのような形式になり、モニタが並べられて各自が自由に閲覧できるようになっていました（写真2）。

さて、今回私は陽子線治療とホウ素中性子捕捉療法（Boron Neutron Capture Therapy; BNCT）に関する演題をそれぞれ1題ずつエントリーしたのですが、後者が口述発表に選ばれました。学会では通常、スケジュール管理が厳密なはずだと思っていたのですが、専門分野に特化した学会ではそうでない形式もあるのか、あるいはたまたま担当した座長がルーズなお方だったのか、定かではありませんが、私の発表は当日の最後のセッションということもあってか、“質問が出尽くすまで続ける”というフリースタイル(?)でなかなか貴重な経験をさせていただきました。そのセッションの中でも私の発表が最後になっていたため、いつまで経っても終わらない質疑応答、座長が途中で注意しても意に介さず発表し続ける演者たち、など目の当たりにして“聞いてないよ!!”と心の中で叫ばずにはいられませんでした。時すでに遅し、矢沢永吉氏の言葉を借りれば“エニウェイ、やるしかない”という心境で覚悟を決めました。その結果、英語発表自体は準備をしていた甲斐もあり、滞りなく終えることができたのですが、そこから先はこれまでに経験したことのない質問の嵐でかなり嫌な汗をかきましたが、何とか無事生還できたところです。しかし、セッション後も個別に質問が相次ぎ、参加者のBNCTに対する関心の高さが窺え、終わった後は安堵感よりもこれから取り組まなければならない課題の多さに危機感ばかりが募った、そんな国際学会参加でした。

以上で私の拙い報告記は終わりとさせていただきたいと思います。国際学会への参加は、特に発表が伴う場合、時にツライ思いをすることもあります。同じ分野で活躍している世界の人々と交流することは新しい刺激と発見をもたらしてくれることも少なくないと思います。勤務の都合で海外まで行けない方でも国内で開催されるタイミングを見計らって日帰り参加するだけでも刺激を受けることはできるように思います。また、昨今は国内学会でもインターナショナルセッションが設けられることもありますのでそういう場を活用するところから始めるのもよいかもかもしれません。残念ながら現在はCOVID-19の影響で国際学会どころか国内学会も開催延期が続いており、先の見通しが立たない状況が続いています。今年も懲りずに台湾で開催が予定されていたPTCOG59にも演題エントリーしていましたが、早々と開催の1年延期が決まっているところです。早くこの状況が改善されることを願いつつ、今は鞘の中の刀を磨く時期だと自身に言い聞かせ、来るべき時に備えているところです。



写真1 メイン会場の様子



写真2 ポスター会場の様子

～会長 「オンレコ」～

1 「JART定時総会」

6月6日(土)に代議員からの紙面評決書で開催されました。Web配信でのライブ中継も行われ、役員改選にて上田氏が新しい会長に選出されました。今後は、会員に風通しの良い技師会を目指して欲しいと願っています。

2 「第9回定時総会（紙面上採決）の結果」

5月30日(土)太田西ノ内病院を会場にして開催しました。最低限の人数で距離を取り、換気に気をつけてマスク着用で行いました。会員の皆さんから、「紙面評決書 兼 委任状」を郵送していただき、会員数685名中522名（出席者7名、委任状512票）で総会が成立出来ました。各議案については、第1号議案から第5号議案まで、賛成多数で全て承認されました。

3 「県技師会総会後に第1回理事会（電磁的承認）」

第9回定時総会の結果やJART定時総会の結果について報告を行いました。資料を共有ファイルに入れ、メールで説明を行い承認いただきました。技術学会ではWeb会議を行っていますが、TCRT2020企画プログラム委員会でもWebexを利用してWeb会議を行いました。県技師会でも、今後は補助的にWeb会議を取り入れたいと考えています。協議事項で少し混乱がありましたので、第2回からは明確なシステムを取り入れます。

4 「フレッシューズセミナーについて」

毎年6月の日曜日に新人技師を対象に、社会人マナー・感染対策・医療安全・解剖等の講習を行っていました。COVID-19の影響でJARTからは12月までに開催との連

絡があり、年末まで開催を行えるように生涯教育と検討します。

5 「TCRT2020の開催中止について」

5月26日に企画プログラム委員会をWeb開催しました。多くの意見がありましたが、COVID-19の影響を考慮して、今年度の第10回大会開催は中止としました。発表や参加を楽しみにしていた会員には、大変申し訳ありませんでした。

6 「今年の保健所立入り検査について」

県HPへ掲載もしましたが、COVID-19の影響で保健所も手が回りません。令和2年度は検査実施しない施設もあるようです。ただ、被ばく線量の記録・管理や研修等は忘れずに行いましょう。

7 「POSS電子申告について」

今年は昨年の反省を踏まえ、早めに入力を開始しました。各副会長や事務局長には大変ご尽力をいただき感謝いたします。万全を期して、Web会議での進捗状況の確認や問題点も話し合い、最終的には遊佐事務局長と阿部副会長に再度確認をして頂き、無事、6月27日に提出しました。

8 「事務所購入の検討」

電子申告でも遊休財産が増えていて問題になりました。内部留保と指摘されないよう、事務所購入積立てを使い購入を目指しWGで検討します。

第9回公益社団法人福島県診療放射線技師会 定時総会議事録

開催日時：令和2年5月30日13時～14時30分

開催場所：太田西ノ内病院5号館

会員総数：685名

出席者数：522名（委任状出席者515名）

総会成立：総会運営委員長元木弘之より会員総数685名中522名の出席があり定款17条の定数を満たすので有用に成立している旨報告された。

出席理事：代表理事新里昌一（議事録作成者）

欠席理事：鈴木雅博、阿部郁明、大和田重義、堀江常満、菅野和之、池田正光、佐藤佳晴、鍵谷 勝、菅野修一、濱端孝彦、花井辰夫、森谷辰裕、目黒昭夫、松井大樹、佐藤龍一

欠席監事：齋藤康雄、高橋宏和

議長に照井英樹、大河内徹が選出され、満場一致により承認された。議長は、本会は適法に成立したので開会することを宣し、直ちに議事に入った。

議題

**第1号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師
会令和元年度決算報告について**

財務担当理事代理で会長新里から詳細な報告・説明がなされた。議長は第1号議案について、これを議場に諮ったところ、質問はなく、満場一致で可決承認された。

**第2号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師
会令和2年度事業計画案について**

会長新里から詳細な提案・説明がなされた。議長は第2号議案について、これを議場に諮ったところ、質問はなく、賛成多数で可決承認された。

**第3号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師
会令和2年度予算案について**

財務担当理事代理で会長新里から詳細な報告・説明がなされた。議長は第3号議案について、これを議場に諮ったところ、質問はなく、賛成多数で可決承認された。

第4号議案 規約追加について

会長新里から災害支援規程（案）の目的や支援内容について、詳細な提案・説明がなされた。議長は第4号議案について、これを議場に諮ったところ質問はなく満場一致で可決承認された。

第5号議案 会員除名について

事務局代理で会長新里から県南地区協議会会員1名の会員除名について詳細な提案・説明がなされた。議長は第5号議案について、これを議場に諮ったところ、質問はなく、満場一致で可決承認された。

その他

質問① 医療体験セミナーへの高校生の参加は検討出来ないか。

会長新里：医療体験セミナーは全県単位の中中学生を対象に開催している。3年前より参加しているが、昨年度は主催者側の判断で中止となった。技師会だけの意向では難しいと思うが、福島県立医科大学新学部で同様のイベント等があれば協力する。

質問② 予算に余裕があれば、PPEを技師会で購入し各病院に配布するのはどうか。

会長新里：今年度はCOVID-19関係で研究会中止も相次いでいる。予算も含め理事会で検討する。

質問③ 資料もCDではなくオンライン（ホームページ、メール等）でも良いのでは。

会長新里：全ての会員がネット環境にあるか不明であり、現状のスタイルを続ける。今後については検討する。

質問④ 山形県技師会では、文章やハガキ等を廃止したときいている。福島県でも役員の手間を減らし、会費等の見直しにより会員の人数が増える事を願う。

会長新里：今後検討する。第10回東北放射線医療技術学術大会において、開催案内・演題募集のハガキを廃止したが、今年度は中止となった。山形県や東北各県からも情報を集めて、良い部分は取り入れて行きたい。先日、理事会においてWeb会議テストを行った。理事会がWeb開催等になれば、時間的にも経費的にも有用だと思う。現状では、電子的承認（メール）の補助的な使い方を考えている。

他に意見等の発言はなく、議長は以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、14時30分閉会を宣言した。

地区だより

会津地区

「令和2年度会津地区協議会全体会」開催

令和2年5月23日(土)にホテルニューバレスにて開催されました。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止による集会等の自粛要請を考慮し、会の規模を縮小するために、例年同時開催している会津画像研究会は中止し、全体会のみで開催となりました。全体会は3密を避け、受付時に手指消毒を行い、マスク着用にて行われました。事前に、会員は可能な限り委任状での参加が案内された

ため、参加者は例年より少ない8名となりました。（委任状提出者は72名で全体会成立の条件は満たされてきました。）議事は、全て賛成多数で承認されました。例年とは異なる状況下での開催となりましたが、新型コロナウイルス対策を今後も考慮しながら活動に反映させる必要性を感じました。

（早川）

各協議会の全大会も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面での開催となりました。

お知らせ

マンモグラフィ平均乳腺線量の装置表示値をPiranhaで検証してみませんか？

福島県精度管理委員会

マンモグラフィでのTarget/Filterの種類によっては、装置表示値と実際の平均乳腺線量には大きな差がある場合があると言われております。4月からはじまった医療法改正に伴う放射線管理の観点から、自施設の乳房厚に応じた線量表示値を検証することは大切なことでないかと考えます。

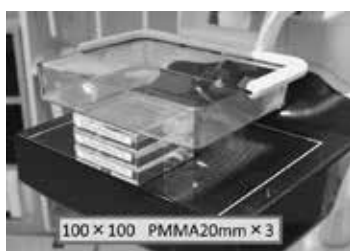
平均乳腺線量は本来AI減弱法での測定ではありませんが、半導体式X線出力アナライザPiranhaには、1回の撮影で簡単に半価層及び平均乳腺線量を測定することが可能となっております。

会員からメーカー説明会をとの声がありましたが、既に2度の説明会が終了しております。

精度管理委員会ではPiranha 657の普及案として、自作ではありますが備品としてFPD保護鉄板、精中委基準に合わせた高さ調整Piranha台座、PMMA 20mm 3枚、RMI 156ファントムをご用意いたしました。また、測定してみたいけどわからないという方のために、アクロバイオ社、乳腺画像研究会のご協力とアドバイスをいただきながら、簡易測定マニュアルと測定シート、Piranha 657管理PC内には測定方法簡易ビデオも用意いたしました。FARTホームページ測定器貸し出しサイトにリンクを掲載いたしますので、興味のある会員の方はどうぞご覧になりご利用ください。

〈Piranha 657定期巡回表〉

7～8月 いわき、9月 相双、10～12月 県北、
R3年 1～3月 会津、4～6月 県南



(大和田)

メールアドレス変更のお知らせ

ネットワーク委員会

技師会で使用している研究会・勉強会開催案内の送付先アドレスに対して、大量のスパムメールが送り付けられている状況となり、当該アドレスを変更いたしました。

旧アドレス gyoumu@fart.jp

新アドレスは Gyoumu2@fart.jp

(菅野)

第10回東北放射線医療技術学術大会 中止のお知らせ

2020年5月30日

関係各位

第10回東北放射線医療技術学術大会 (TCRT2020)
大会長 新屋 昌一
実行委員長 村上 克彦



第10回東北放射線医療技術学術大会 中止のご案内

謹啓 時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素は東北放射線医療技術学術大会に各段のご高配とご協力を賜り心より感謝御礼いたします。

このたびの新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対して、各医療施設では共に大変なご苦労をされていること存じます。各学会や研究会のイベントが中止または延期になる事態になりました。2020年11月14-15日に開催予定の第10回東北放射線医療技術学術大会 (TCRT2020) ですが、2波、3波が懸念される中で今年度の開催を断念することに致しました。企画プログラム委員会で開催して、Web開催等も模索いたしましたが無事に開催できず、今年度内開催は見送るのが妥当との結論に達しました。

楽しみにしていただいた東北および新潟県の会員の皆様、協賛いただいた企業の皆様には大変申し訳なく思っております。ご報告が済んだ直前になり、発表を予定されていた方々やシンポジウム等を企画していた方々には、大変ご迷惑をおかけします。

なお、次回の開催については、開催方法も含めて慎重に検討を行って参ります。決定後は、またご報告いたしますので、ご理解およびご協力を賜りますようお願いいたします。

謹白

【開催中止】

第10回東北放射線医療技術学術大会 (TCRT2020)

開催場所 福島市 コラッセふくしま

開催日時 2020年11月14-15日 (土日)

編集後記

日々の業務が忙しい中、みちのくこまち（業務改善推進委員会東北支部）からのアンケートに、多くの施設の方からご回答いただきありがとうございます。11月の東北放射線医療技術大会にむけ準備しておりましたが、残念ながら中止となりました。せっかく頂いたご意見を無駄にしないよう、次の機会に活かしたいと思っております。放射線技師の職務改善の一環になればと考えておりますので、今後ともご協力お願いいたします。

(國分)